

# Nyonyum 8号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI



## 任地での休日の過ごし方～宴会好きなカンボジアの人々と共に

休日となれば、昼間からあちこちの自宅前で宴会をする光景を目にします。休息日に当てるが多かった唯一の休日・日曜日も、心身に余裕が出始めてからは、様々なお誘い（宴会）に積極的に参加するようになりました。言葉は十分に通じなくとも、**同じ時間を共有するからこそ育まれる関係性**。地道ではありますが、大切にしています。



宴会好きで、よく飲みよく食べるカンボジア人の健康はとても心配です。近年、**糖尿病患者が増加傾向**というデータもあるほど。時々、健康的な参加の仕方を考えてしまいます。

任地では、9～11月は田園風景を眺めながらの宴会（ござの上に料理を並べる）も休日の楽しみ方の一つ。



9月、田園風景はインスタ映えポイントの一つ



11月下旬、まもなく稲刈り（田植えは、7月末頃から）



小魚、カニを捕まえたりと、田んぼは子どもたちの遊び場！

農村で暮らすお家にお招きして頂くこともあります。

隣村で行われている英語塾に、時々顔を出しています。学習のサポートをすると共に、僕自身が先生の説明を聞きながらクメール語の勉強をさせてもらっています。



自宅庭で飼育する牛、豚、にわとり、カエル、カニ、自生する植物、田んぼで取れる魚やエビなどのいのちの恵みを食材に、おもてなしをいただきました。**いのちの循環を大切に生活する**様子が伝わってきました。



平日午後1時間、週5回開講。月謝は約5ドル。誰でも参加しやすい良心的な価格です。中には、お金を払わない生徒もいるとか。それでも、**先生は、子どもたちの将来を想い、学ぶ機会を与え続けている**そうです。



皆の前で暗唱



使用教科書

# 特集「カンボジアの歴史や文化」①

## カンボジアの「三大行事」って？

滞在期間8か月の間に、カンボジア国民にとって、とっても大切な3つの伝統行事を体験することができました。うち二つの行事は、一緒に暮らすご家族と共に、どっぴりと堪能。3つの行事の体験レポートを紹介します！

4月	ボンチョール チュナムマイ (クメール正月)	カンボジアには、「国際正月」(1/1)、「中国暦の旧正月」(2月)、「クメール正月」と3つの正月がある。最も重要なのがクメール正月(3日間)で、 <b>天から新しい女神が降りてくると</b> 伝えられており、各家庭では玄関前に祭壇やお供え物などを用意し、健康や幸福を祈る。故郷で、家族や親せきと過ごし、お寺では伝統的な舞踊やゲームが催される。
----	------------------------------	---



クメール正月の期間は、首都プノンペンでの研修中だったため、日本の元旦にあたる日は、隊員仲間と、カンボジアの祈りの中心となっている「ワットプノム」(1373年建立)を訪問し、お参り。多くの人で賑わっていました。元旦を迎えるカウントダウンの夜は、若者たちのにぎやかな声が響き渡り、なかなか寝付くことができませんでした。

9月	ボンブチュム (お盆)	日本でいう「お盆」に当たる。カンボジアの人々にとって <b>最も重要な祖先祭祀の仏教行事</b> の一つ。今年は、 <b>9月11日～26日までの15日間</b> に渡って実施。家族・親戚でお寺を訪れ、 <b>家庭料理(白飯、各種料理)</b> を寄進しお経を唱えて頂く。最後の3日間は祝日となり、人々は故郷へ帰省。家族・親戚・友人同士などでお寺を訪れた後は、宴会を楽しむ。
----	----------------	---



ホームステイ先のご家族や親戚とお寺へ。日本の先祖への想いも馳せ、故郷の家族の健康や幸せを祈念しました。国内の各地から親戚(父型、母型と、総勢40~50名ずつ)が集まり、久々の再会を喜び、大いに盛り上げました。とにかく、飲んで食べて飲んで食べての、3日間となりました。

11月	ボンオムトゥーク (水祭り)	季節が雨季から乾季に変わる11月の満月の前後3日間に渡って、 <b>雨期明けを祝い、豊穣に感謝する行事</b> 。スパイリエンでは、10月29~30日に開催。メインイベントのボートレースには多くの観客が集まり、各地区の代表が熱戦を繰り広げる。またたくさんの露店が並び、夜には4つの特設コンサートステージが登場、打ち上げ花火も上がる。
-----	-------------------	--



ボートレースでは、1チーム22名、色とりどりの衣装をまとった漕ぎ手が、約800mの直線コースを掛け声に合わせて一糸乱れぬ動きで漕ぐ様子が、とても興味深く思わず見入ってしまいました！夜は、コンサート(ビール会社が運営、無料)に出かけ、クメールダンスを堪能。いつも静かなまちが、多くの人で賑わい、パワーを感じる2日間となりました！

どの行事も、カンボジアの歴史や文化を肌で感じ、また家族・親戚の温かさや結びつきの強さに触れる機会となりました。